

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 中高一貫教育の実績を活かした地域理解教育・国際理解教育の充実	① 中高合同で地引網や海岸清掃をすることで、地域の産業や環境について学び、豊かな心と郷土愛を育む。	中高一貫行事は A とても楽しかった。 B ある程度楽しかった。 C あまり楽しくなかった。 D 楽しくなかった。	28% 60% 12% 0%	・生徒アンケートの結果、A+Bが88%となり、判断基準を上回った。 ・天候にも恵まれ、地引網の収穫もたくさんあった。本校生徒も富来中学生も地引網をととても楽しんだものと思われる。 ・富来中学生との交流も深まった。
		地域への関心が A とても高まった。 B ある程度高まった。 C あまり高まらなかった。 D 高まらなかった。	22% 56% 20% 2%	・生徒アンケートの結果、A+Bが78%となり、判断基準を上回った。 ・地域に根ざした学校として、本校はその役割をほぼ果たしたと考えられる。
	② 国際理解講演会を実施し、中学生との交流を図り、国際理解を深める。	国際理解が A とても深まった。 B ある程度深まった。 C あまり深まらなかった。 D 深まらなかった。	22% 52% 18% 8%	・生徒アンケートの結果、A+Bが74%となり、判断基準を上回った。 ・国際理解講演会の講師の選択にも十分に気を配った。 ・英語がコミュニケーションの道具であるということを生徒は講演会をとおして理解できた。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・「競争意識」という観点からみると、富来高校の特色ある教育活動である「中高一貫教育」は他の中学校から入学する生徒がほとんどいないので、本校の生徒は意識が低いのではないかと。 ・地曳網では天候にも恵まれ、富来中学生と楽しい交流活動ができたと聞いてよい評価をしたい。 ・全体的にみると、「地域理解教育」や「国際理解教育」は地域に根ざした学校として成果はあがったと言える。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 6年間を見通した中高連携最終生徒の希望進路の実現	① 自分の将来を見据え、最後の高校生活の生活設計をする力を養う。	定期考査等に対して、計画した学習が A 70%以上達成できた B 60%以上達成できた。 C 50%以上達成できた。 D 50%未満である。	20% 52% 18% 10%	・生徒アンケートの結果、A+Bが72%となり、判断基準を上回った。 ・3年生としての自覚はあったが、Aの20%の数値は高いとは言えない数値である。
	② 生徒の適性や希望に応じた進路指導を行い、正しい進路の選択とその実現を図る。	志望と結果の一致した生徒の割合は A 90%以上であった。 B 80%以上であった。 C 70%以上であった。 D 70%未満であった。	B	・4月の進路志望調査と実際の結果で判断。 ・31Hの実現率は88%、32Hの実現率は82%となり、全体で86%の生徒が4月の志望と一致した。
	③ 進路実現のための面談指導を充実させる。	年間、面談を A 5回以上行った。 B 4回行った。 C 3回行った。 D 2回以下であった。	A	・担任の自己評価で判断。 ・クラス担任は進路実現のために面談を効果的に行い、十分な成果をあげている。 ・この成果は進路指導課と担任の連携によるものである。
	④ 進路実現のためにより高い資格取得を目指すよう指導する。	計画どおりに学習できた生徒の割合は A 80%以上であった。 B 70%以上であった。 C 60%以上であった。 D 60%未満であった。	D	・生徒アンケート調査の結果では、資格取得に計画どおりに学習できた生徒の割合は56%であった。 ・資格試験受験に対しては、生徒の意識は不十分であった。ただ、漢字検定や英語検定の受験も資格試験に含まれることを明確にしておくべきだった。
	⑤ 遅刻減・身だしなみ・挨拶など、基本的な生活習慣を確立させ進路実現を側面より支援する。	A 遅刻が30%減った。 B 遅刻が15%減った。 C 前年と変わらない。 D 遅刻が増えた。	A	・生徒指導課の判断。 ・遅刻は昨年と比べ半減した。ただ少数ながら、遅刻常習者の意識はあまり変わらなかった。
		身だしなみ検査で合格する割合が A 前回より20%以上増えた。 B 前回より10%以上増えた。 C 前回と変わらなかった。 D 前回より下がった。	B	・生徒指導課の判断。 ・女子は100%、1回目で合格した。 ・ごく少数ではあるが、男子の頭髪については再検査を繰り返す生徒もいた。
	⑥ 公共の設備を大切にすることをもち、環境美化活動に積極的に取り組むように指導する。	協力して清掃活動を A しっかり行っている。 B まあまあ行っている。 C あまり行っていない。 D 全く行っていない。	42% 58% 0% 0%	・生徒アンケートの結果、A+Bが100%となり、判断基準を上回った。 ・清掃や環境美化に対する生徒の意識は十分にある。
学校関係者評価委員会の評価	・進路志望の変更はありうることである。また、生徒の学習量では昨年より増えてよかった。 ・身だしなみや挨拶などの基本的な生活習慣の確立は社会生活への基本である。成果はあがったのではないかな。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 生徒との信頼関係を深めつつ関心・意欲を引き出す授業改善による学力向上	① 各教科で宿題を課し、日常での学習習慣を身につけさせる。	平日の学習時間が A 2時間以上である。 B 1時間以上である。 C 30分以上である。 D 30分未満である。	16% 33% 29% 22%	・教務課の生活状況調査で判断。 ・7月、9月に、1時間以上学習している生徒が約70%になり、かつ2時間以上の生徒も23%いた。 ・全体的には波はあるものの、学習習慣ができてきたものとする。
	② 教師一人一人が、生徒の関心・意欲を引き出すために授業指導法の工夫・改善を図る。	授業指導法の工夫・改善を A 常に心がけている。 B ある程度心がけている。 C あまり心がけていない。 D 心がけていない。	45% 45% 0% 0%	・教職員の自己評価アンケートの結果、A+Bが90%となり、判断基準を上回った。 ・教師一人ひとりがそれぞれの授業改善を心がけているが、Aのパーセントをもっと高くする必要がある。
	③ 生徒・教師が共に授業に対する意識を高め、「ベル着」「ベルスタート」を守る。	「ベル着」「ベルスタート」は A ほぼ100%できている。 B 90%以上できている。 C 80%以上できている。 D 80%未満である。	36% 36% 9% 9%	・教職員の自己評価アンケートの結果、A+Bが72%となり、判断基準を上回った。 ・時間どおりに授業を始めるのは、基本中の基本であろう。
	④ 朝読書に図書館を利用するだけでなく、生涯にわたる習慣として読書を定着させるように取り組む。	一人平均、各学期で A 10冊以上利用している。 B 7冊以上利用している。 C 5冊以上利用している。 D 5冊未満である。	B	・図書情報課の貸出調査では1年間で生徒一人平均は、16.5冊である。 ・朝読書の時間が定着して、生徒の読書習慣が身につけている。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教室での学習の様子を見せてもらったが、生徒は真面目に勉強していた。 ・10分間の朝読書は、読書習慣を身につけるためにはとてもよい活動である。 ・生徒と先生の関係は、家庭的で信頼関係があると思う。 ・昔に比べると、生徒はとてもおとなしい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 部活動の充実、特別教育活動の活性化等を通じた地域との連携	① 部活動に毎日顧問が顔を出すように取り組む。	部活に毎日顔を出すことは A 80%以上できた。 B 70%以上できた。 C 60%以上できた。 D 60%未満であった。	36% 55% 9% 0%	・教職員の自己評価アンケートの結果、A+Bが91%となり、判断基準を上回った。 ・とりわけ、ホッケー部の全国インターハイ出場や弁論部の全国大会、家庭部の食育王選手権全国大会への出場が輝いている。
	② 学校全体で環境保全活動に取り組む。	節電、節水、ゴミ分別の環境保全活動を理解し実行できた。 A よくできた。 B まあまあできた。 C あまりできない。 D まったくできない。	34% 54% 10% 2%	・生徒アンケートの結果、A+Bが88%となり、判断基準を上回った。 ・生徒の環境保全活動に対する意識はある程度身につけている。
	③ 花いっぱい運動にPTAと生徒会が連携して、組織的に取り組み、花の世話を通じて豊かな心を育む。	花の世話ができた生徒の割合が A 50%以上であった。 B 40%以上であった。 C 30%以上であった。 D 30%未満であった。	A	・水やりも含め、全校生徒の90%がかかわり、判断基準を上回った。 ・夏季休業中でも生徒は当番の日に登校し、水やりをしていた。
	④ 交流のある保育園児や高齢者の方に憩いのひとときを提供し、他人を思いやる心を育む。	それぞれの活動の意義を A 十分感じる事ができた。 B ある程度できた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	72% 28% 0% 0%	・生徒アンケートの結果、A+Bが100%となり、判断基準を上回った。 ・記述式のアンケートからも生徒の他人を思いやる心が十分感じられる。
	⑤ ボランティアの意義について考え、具体的な活動を行う。	A 積極的に取り組んでいる。 B ある程度積極的である。 C あまり積極的ではない。 D 全く積極的ではない。	18% 42% 34% 6%	・生徒アンケートの結果、A+Bが60%となり、判断基準を下回った。 ・数値はやや低い、生徒のボランティアに対する意識は高いため、学校としての取り組みの仕掛けづくりにもっと工夫や準備が必要だったと思う。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・この重点目標に対する評価は、どの取組でも全体的に高くなっていてよい。 ・ボランティア活動に関しては、地域にもっと広報をすれば「ふれあいコンサート」などの参加者が増えると思う。ちょっと残念であった。 ・学校でもペットボトルのふたを集めるなど、昨年依頼したことがきちんと行われている。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策				